

2. 地域の概要

2. 地域の概要

2.1 自然的条件

2.1.1 位置と沿革

港区は東京都のほぼ東南部に位置し、東側で東京湾に面している。その周囲は中央区、千代田区、新宿区、渋谷区、品川区、江東区と境を接し、23区内では中央区、千代田区とともに産業経済の中心地を形成している（図 2.1.1）。

区の行政範囲は東西約 6.6km、南北約 6.5km、面積は 20.37km²で東京 23 区中 12 番目の大きさであり、23 区の総面積の 3.27%ほどを占めている。

江戸時代の港区は、海岸の埋め立てはあまり進んでおらず、現在よりも面積は小さかった。当時の海岸線は現在の JR 東海道線付近にあり、沿岸部には漁村や町家が並んでいた。また、当時の幹線道路である東海道が通り、重要な交通路となっていた。一方、山の手台地上には武家屋敷が立ち並び、谷筋の低地には町人の住む寺社の門前町があり、いわゆる江戸の下町に連なっていた。

明治時代の末から大正年間、昭和初期にかけて海岸部の埋め立てが進み、昭和 42 年にはほぼ現在の海岸線が形成されるに至った。現在の芝浦・海岸地区は明治末から昭和 35 年、港南は大正から昭和 42 年に埋め立てられ、もっとも新しい埋立地である台場地区は昭和 38 年～49 年に埋め立てられたものであり、現在まで、主に商業地や公園として整備が行われてきた。

区としては昭和 22 年に旧赤坂区、旧麻布区、旧芝区の合併により港区となり、以降、高度な都市化を進展させつつも、旧来の町の面影を残し現在に至っている。



図 2.1.1 港区の位置

2.1.2 地形地質

港区の地形（図 2.1.2）は、大きくは東側に広がる低地と西側の台地に分けられる。最高地は T.P.34m（北青山三丁目）、最低地は T.P.0.08m（JR 浜松町駅前ガード付近）である（以降、T.P.m（東京湾平均海面標高）を標高mという）。台地は標高約 30～40mの平坦面を有し、区の中央を流れて現在の浜松町駅周辺で埋め立て前の河口域を形成する古川及びその支沢によって刻まれていくつかの台地群をなす。台地群は、北から赤坂台地、青山台地、飯倉台地、麻布台地、三田段丘、白金台地、高輪台地などと呼ばれている。一方、低地は古川及びその支沢の形成する沖積低地と東京湾に面する砂州・砂堆及び埋立地からなる。台地と低地の境では急な斜面を形成し道路は急坂となっており、さまざまな名前のつけられた 80 余りの坂の名前からは港区の歴史や文化だけではなく、地理的環境を知ることにもできる。

港区の地質（図 2.1.3 及び図 2.1.4）は、「東京都総合地盤図 I（東京都土木技術研究所編,1977）」によれば、下位より上総層群、江戸川層、東京礫層、東京層が堆積し、台地部ではその上位にローム質粘土層、関東ローム層が厚く堆積し、低地部では有楽町層と沖積層が堆積している。

2.1.3 気象

港区近傍の気象庁所管の気象観測施設のうち、もっとも近い東京管区気象台（千代田区大手町 1-3-4）の気象観測記録によると、平均気温は 20 世紀の 100 年で約 3℃上昇しており、近年、地球規模で問題となっている温暖化の影響がうかがえる（図 2.1.7）。また、日本の年平均地上気温の上昇（過去 100 年で約 1℃といわれている）に比べて明らかに大きいことから、都市部に特有のヒートアイランド現象が深く関わっていると考えられる。

年降水量はおおよそ 1,500mm 強で長期的には減少傾向を示している（図 2.1.5）。一方で最大 1 時間降水量は増加傾向を示しており、降雨の時間方向における偏在化がうかがえる（図 2.1.6）。過去 60 年間の気象データから求めた最大 1 時間降水量の発生確率によれば、50mm/h を越えるような降雨の確率は 4 年に 1 回程度である（図 2.1.8）。

港区のようにアスファルトや人工構造物で被覆された都市において、このような気象状況の推移は、都市型水害（内水氾濫）の発生確率を高めるばかりでなく、水循環の健全さを損なう地中への雨水浸透量の減少や更なる気温の上昇を招く恐れがある。また、これらの影響が区内の植生に及ぶ可能性も否定できない。

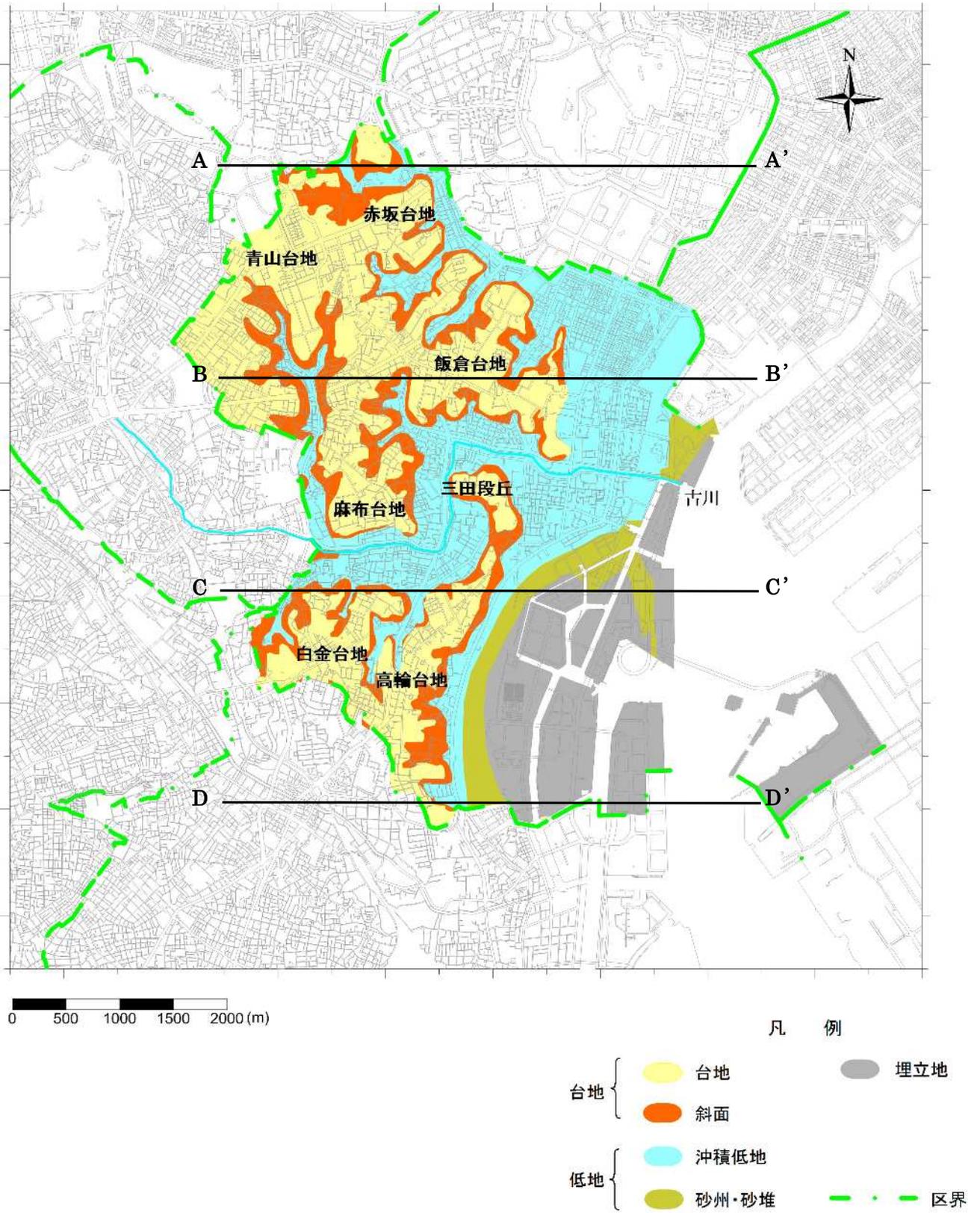
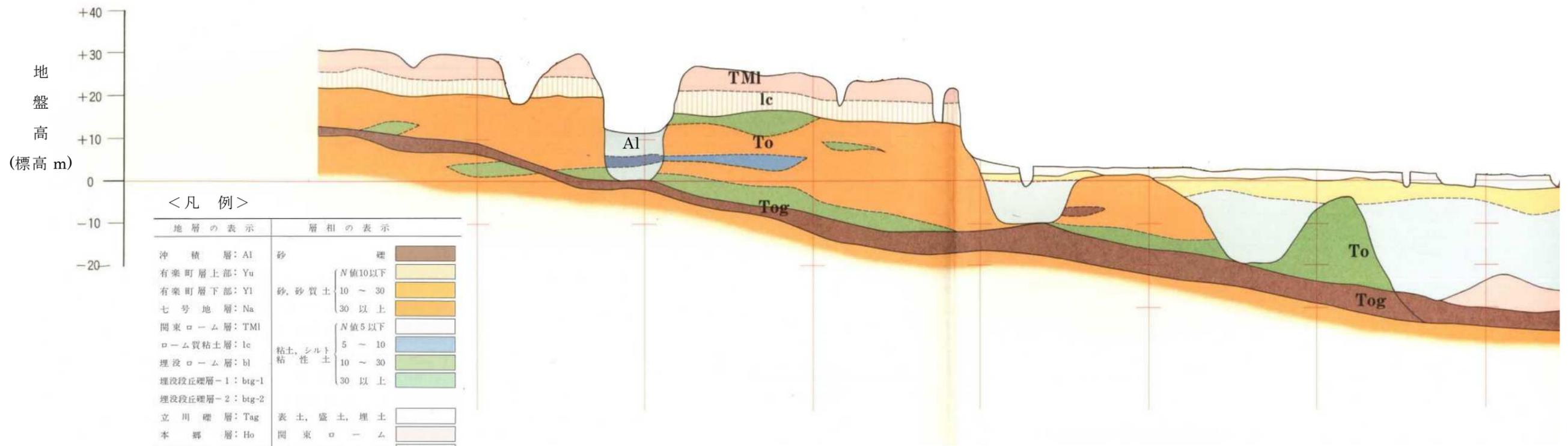
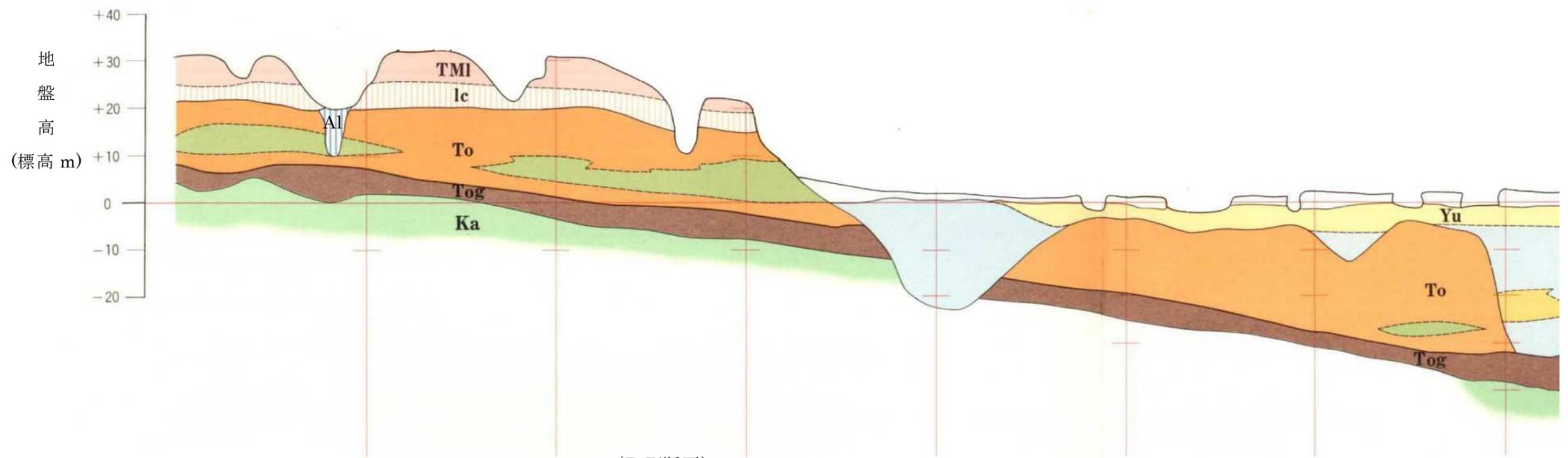


図 2.1.2 港区の地形



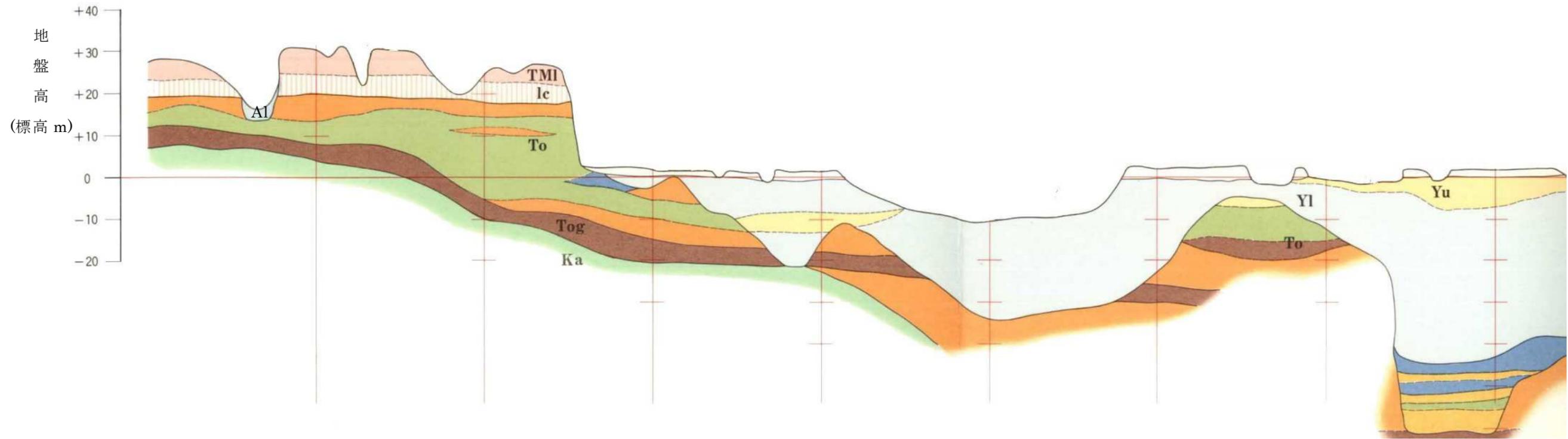
(A-A'断面)



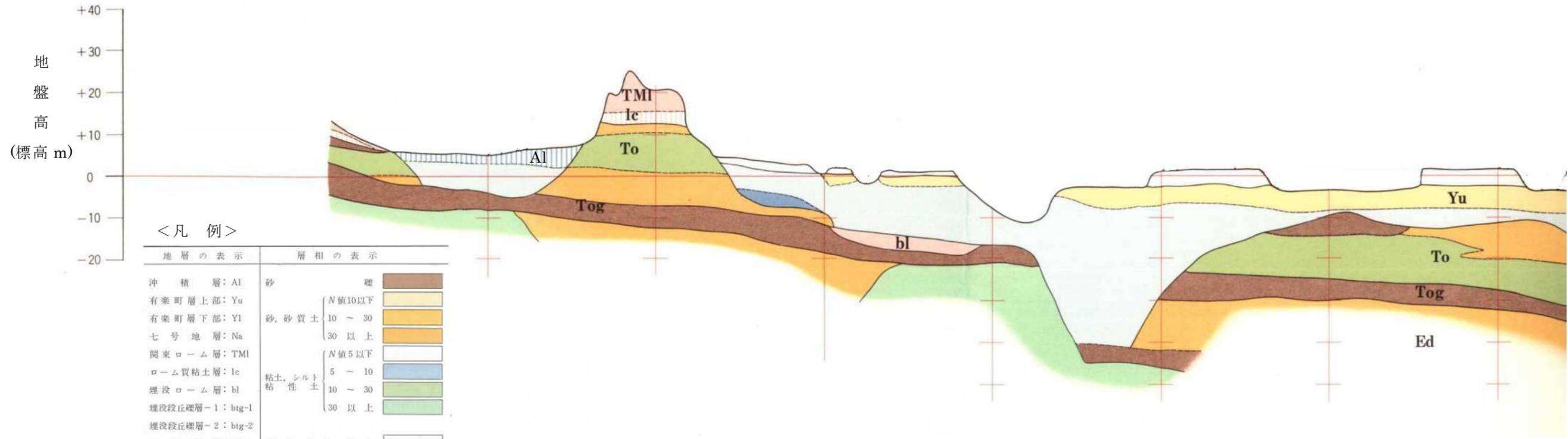
(B-B'断面)

図 2.1.3 港区の地質 (A-A' 断面、B-B' 断面)

出典:「東京都総合地盤図 I (東京都土木技術研究所編, 1977)」



(C-C'断面)



(D-D'断面)

< 凡 例 >

地層の表示	層相の表示
沖積層: Al	砂
有楽町層上部: Yu	砂, 砂質土
有楽町層下部: Yl	
七号地層: Na	粘土, シルト
関東ローム層: TMI	
ローム質粘土層: lc	粘性土
埋設ローム層: bl	
埋設段丘礫層-1: btg-1	埋土
埋設段丘礫層-2: btg-2	
立川礫層: Tag	関東ローム
本郷層: Ho	ローム質粘土
武蔵野礫層: Mg	泥
東京層: To	炭
東京礫層: Tog	腐植土
江戸川層: Ed	地層の境
上総層群: Ka	層相の境

図 2.1.4 港区の地質 (C-C' 断面、D-D' 断面)

出典:「東京都総合地盤図 I (東京都土木技術研究所編, 1977)」

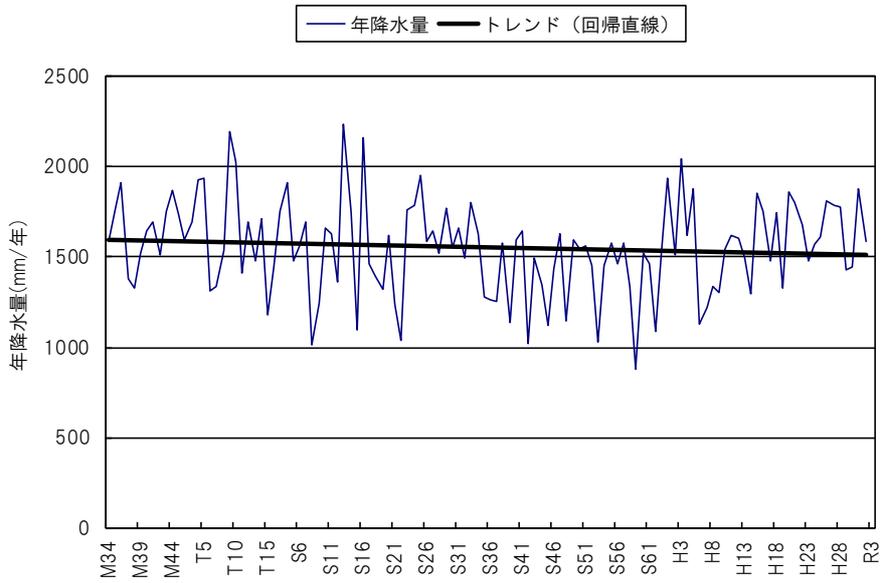


図 2.1.5 年降水量の推移（東京管区気象台）

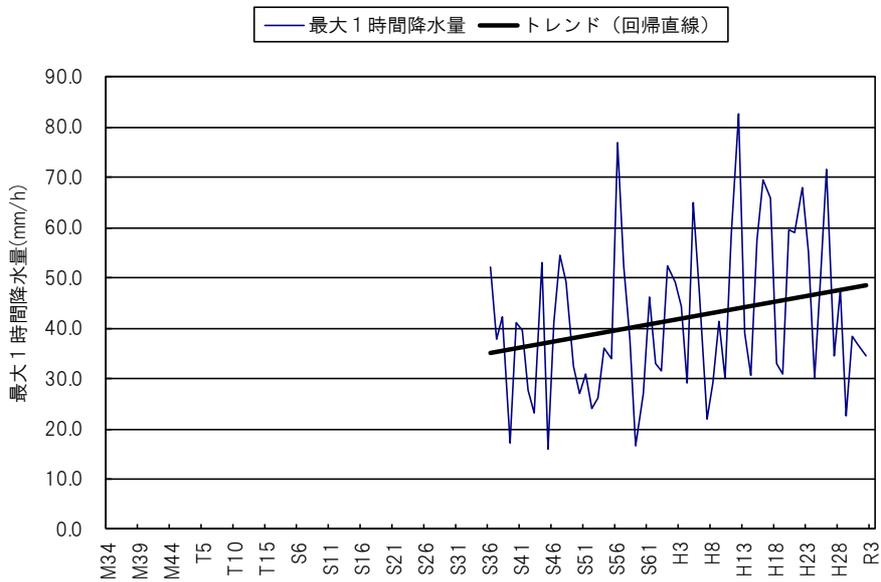


図 2.1.6 最大1時間降水量の推移（東京管区気象台）

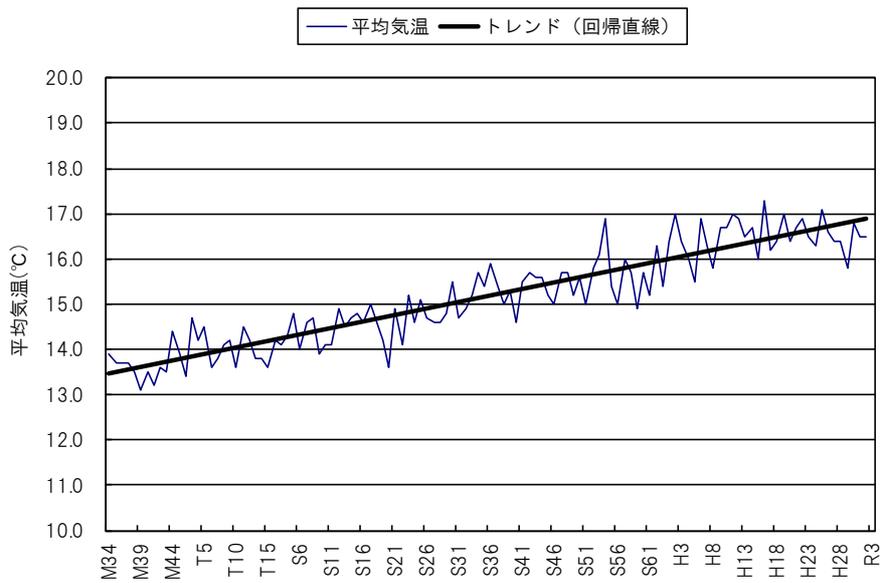


図 2.1.7 平均気温の推移（東京管区気象台）

注) 図中のトレンドは、観測値の一次回帰直線で長期的傾向を表す。

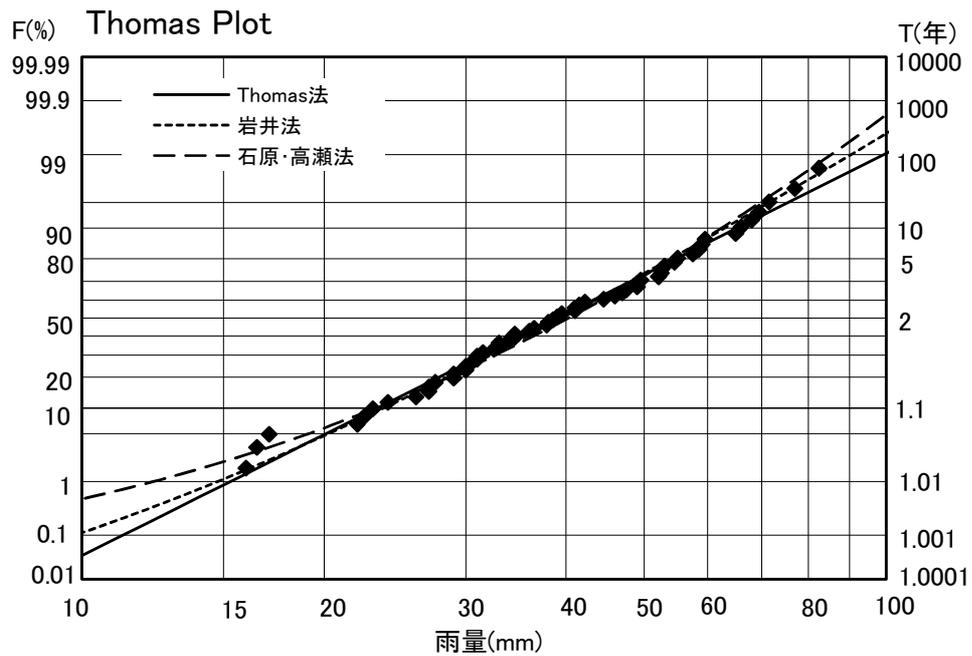


図 2.1.8 最大 1 時間降水量の生起確率 (東京管区气象台)

注) 降水量の生起確率とは、ある雨量の雨が何年に1回発生するかを表す。
 図中のトレンドは観測値の一次回帰直線で、長期的傾向を表す。

2.1.4 植生

港区の潜在植生は、広域的な植物分布からはヤブツバキクラス域（暖帯広葉樹林域）に含まれる。ヤブツバキクラス域は、日本の暖帯地方全域を占め、有史以前から今日に至るまで主な生活域となってきたため、自然破壊が大変進んでいる。

港区では、本来ならば自然林として、内陸ではカシ林（シラカシ群集）、沿岸部の乾燥地帯にはシイ林（ヤブコウジースダジイ群集）、適潤地にはタブ林（イノデアタブ群集）が成立するところである。しかし、区内に残る植生は、ほとんどが人為の影響を受けており、潜在植生の形をなすものは数少なくなっている。

その中で環境省自然環境局による特定植物群落調査では、自然林として高輪東禅寺のアカガシ林とシラカシ林、自然林・植栽として自然教育園のスダジイ林が特定植物群落として選定されている。

この他、比較的自然性の高い樹林は社寺境内地、大使館、公園などの施設内に残っており、特に斜面地に多く見られる。これらの樹林は、主にスダジイ、シラカシ、タブノキ、アカガシなどの常緑広葉樹により構成されている（図2.1.9）。

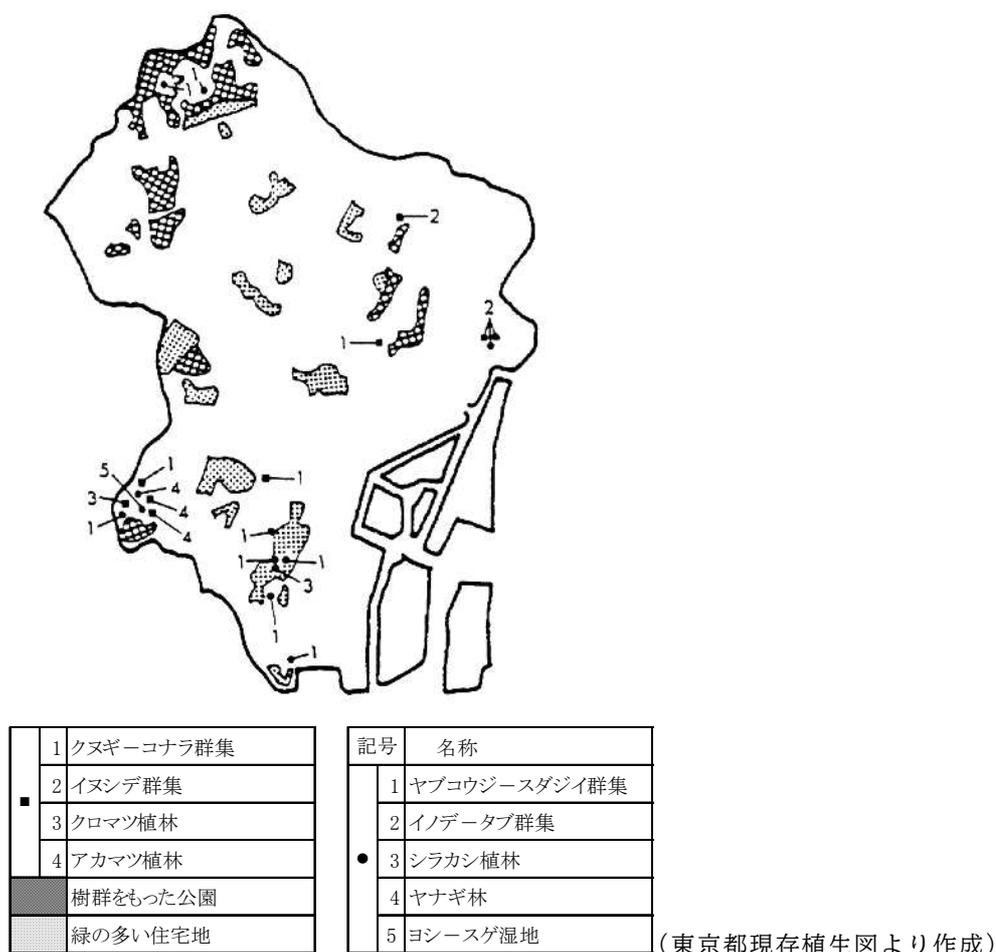


図 2.1.9 港区の植生

2.2 社会的条件

2.2.1 人口

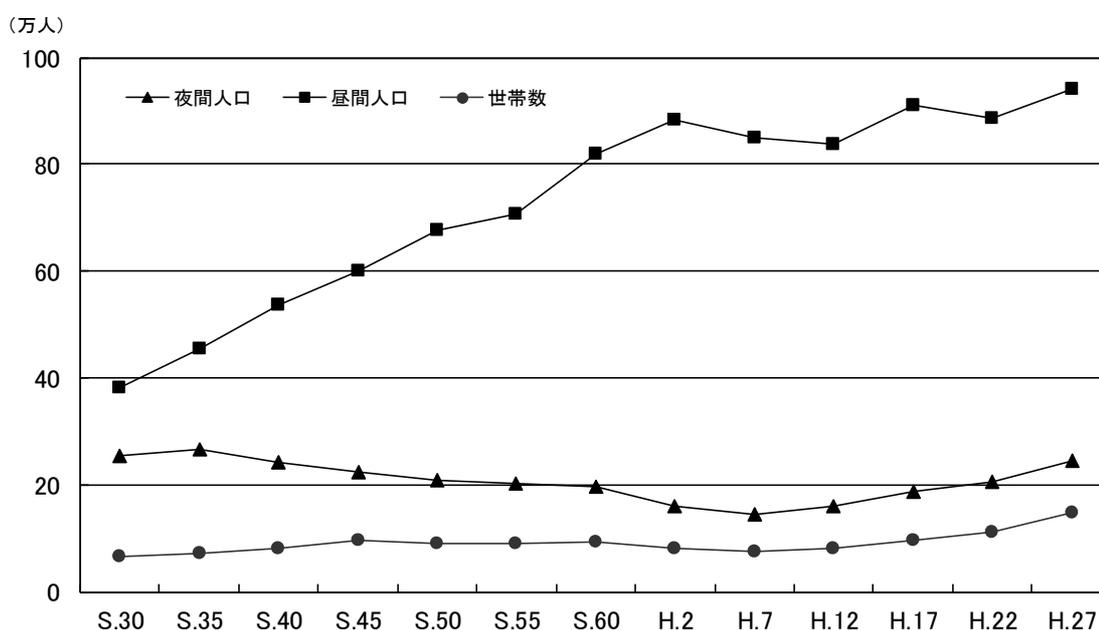
港区の令和3年12月1日時点の住民基本台帳では、人口257,506人、世帯数146,143世帯である。

港区の人口推移を見ると図2.2.1に示すとおり、昭和50年代のほぼ20万人の横ばい状態から、昭和59年より長期的な減少傾向に転じ、平成7年には15万人を割り込んだ。しかし、臨海副都心の開発によって平成9年より増加傾向となり、平成21年5月には20万人台に回復している。

また、港区の夜間人口は、平成27年の国勢調査では243,283人で、平成22年より38,152人の増加となっている。昼間人口は平成27年が940,785人で平成22年より54,612人の増加であり、事業所等の集積から従業、通勤による昼間人口は非常に高い状況である。

世帯数も昭和60年の91,978世帯をピークに減少に転じたが、平成7年以降は増加傾向にあり平成18年2月には10万世帯を越えている。また、1世帯当たりの人口は平成8年から2人以下の少世帯構成の減少が見られる。

町丁目別に集計した港区の世帯数・人口状況は表2.2.1のとおりである。



国勢調査

図 2.2.1 港区の人口の推移

表 2.2.1 港区の町丁目別人口

令和3年12月1日現在

産業・地域振興支援部地域振興課統計調査係

区分	世帯数	人口		計	区分	世帯数	人口		計	区分	世帯数	人口		計	区分	世帯数	人口		計
		男	女				男	女				男	女				男	女	
芝地区総合支所管内					麻布地区総合支所管内					赤坂地区総合支所管内					高輪地区総合支所管内				
芝一丁目	1,307	985	1,041	2,026	麻布狸穴町	322	316	348	664	元赤坂一丁目	235	162	176	338	三田四丁目	1,990	1,599	1,972	3,571
芝二丁目	2,186	1,626	1,819	3,445	麻布永坂町	114	121	137	258	元赤坂二丁目	151	156	135	291	三田五丁目	3,332	2,660	3,353	6,013
芝三丁目	2,183	1,679	1,848	3,527	南麻布一丁目	2846	2068	2507	4575	赤坂一丁目	284	294	323	617	高輪一丁目	3,811	2,970	3,889	6,859
芝四丁目	1,383	1,077	1,199	2,276	南麻布二丁目	2553	1838	2178	4016	赤坂二丁目	2041	1465	1495	2960	高輪二丁目	3,551	2,846	3,501	6,347
芝五丁目	1,937	1,145	1,583	2,728	南麻布三丁目	1725	1427	1722	3149	赤坂三丁目	191	136	119	255	高輪三丁目	2,536	2,204	2,529	4,733
海岸一丁目	1,244	1,047	1,013	2,060	南麻布四丁目	1942	1650	1948	3598	赤坂四丁目	1435	1183	1186	2399	高輪四丁目	2,264	2,033	2,232	4,265
東新橋一丁目	797	691	771	1,462	南麻布五丁目	995	910	1115	2025	赤坂五丁目	498	364	483	847	白金一丁目	2,510	1,817	2,390	4,207
東新橋二丁目	414	332	235	567	元麻布一丁目	588	558	681	1239	赤坂六丁目	2442	1882	2083	3965	白金二丁目	1,279	1,153	1,440	2,593
新橋一丁目	8	5	6	11	元麻布二丁目	970	986	1133	2119	赤坂七丁目	1543	1196	1324	2520	白金三丁目	2,291	1,714	2,093	3,807
新橋二丁目	74	52	49	101	元麻布三丁目	878	817	880	1697	赤坂八丁目	1740	1467	1840	3307	白金四丁目	782	658	843	1,501
新橋三丁目	101	90	82	172	西麻布一丁目	1134	840	804	1644	赤坂九丁目	1444	1124	1021	2145	白金五丁目	1,052	746	907	1,653
新橋四丁目	375	250	235	485	西麻布二丁目	1585	1272	1384	2656	南青山一丁目	1412	1140	1408	2548	白金六丁目	2,049	1,754	2,106	3,860
新橋五丁目	742	496	437	933	西麻布三丁目	1819	1564	1807	3371	南青山二丁目	1253	1071	1163	2234	白金台一丁目	473	457	547	1,004
新橋六丁目	794	537	432	969	西麻布四丁目	1875	1592	1841	3433	南青山三丁目	654	517	627	1144	白金台二丁目	1,540	1,308	1,566	2,874
西新橋一丁目	170	147	102	249	六本木一丁目	1231	1156	1340	2496	南青山四丁目	1680	1580	1795	3375	白金台三丁目	1,871	1,675	2,137	3,812
西新橋二丁目	253	177	164	341	六本木二丁目	640	393	345	738	南青山五丁目	720	622	726	1348	白金台四丁目	1,068	852	1,089	1,941
西新橋三丁目	603	386	400	786	六本木三丁目	1791	1383	1299	2682	南青山六丁目	1049	845	1013	1858	白金台五丁目	1,097	873	1,080	1,953
三田一丁目	2,349	1,918	2,239	4,157	六本木四丁目	682	655	586	1241	南青山七丁目	1401	1241	1505	2746					
三田二丁目	2,399	2,036	2,470	4,506	六本木五丁目	1091	926	1051	1977	北青山一丁目	682	519	749	1268	芝浦港南地区総合支所管内				
三田三丁目	1,055	790	856	1,646	六本木六丁目	837	769	839	1608	北青山二丁目	293	229	287	516	芝浦一丁目	1,829	1,694	1,622	3,316
浜松町一丁目	1,344	1,126	1,094	2,220	六本木七丁目	1393	1009	1091	2100	北青山三丁目	523	407	474	881	芝浦二丁目	2,227	1,726	1,867	3,593
浜松町二丁目	204	148	124	272	麻布台一丁目	122	101	94	195						芝浦三丁目	1,260	995	1,091	2,086
芝大門一丁目	479	368	379	747	麻布台二丁目	265	240	256	496						芝浦四丁目	8,252	8,254	8,744	16,998
芝大門二丁目	542	378	373	751	麻布台三丁目	615	490	529	1019						海岸二丁目	735	633	656	1,289
芝公園一丁目	167	114	130	244	麻布十番一丁目	722	542	573	1115						海岸三丁目	2,627	2,077	1,715	3,792
芝公園二丁目	478	350	333	683	麻布十番二丁目	1866	1279	1481	2760						港南一丁目	217	177	186	363
芝公園三丁目	170	154	164	318	麻布十番三丁目	1155	791	841	1632						港南二丁目	1,332	1,269	1,325	2,594
芝公園四丁目	52	37	31	68	麻布十番四丁目	325	182	267	449						港南三丁目	2,990	3,056	3,356	6,412
虎ノ門一丁目	280	214	216	430	東麻布一丁目	1572	1052	1258	2310						港南四丁目	4,933	5,129	5,624	10,753
虎ノ門二丁目	11	8	6	14	東麻布二丁目	1401	1047	1116	2163						港南五丁目	342	317	245	562
虎ノ門三丁目	1,170	895	964	1,859	東麻布三丁目	591	393	421	814						台場一丁目	2,050	2,186	2,378	4,564
虎ノ門四丁目	399	225	379	604											台場二丁目	453	471	482	953
虎ノ門五丁目	164	154	148	302															
愛宕一丁目	15	15	15	30															
愛宕二丁目	235	248	230	478															

参考 令和3年12月1日現在住民基本台帳

2.2.2 産業

港区は、東京都の都心部に位置するために、産業・経済の中心地としての機能を果たしており、区内には多くの事業所が立地している。

産業分類別に見ると、工業では出版、印刷等の軽工業が中心で、古川流域では中小規模の工場が集中しているが、港湾部には製造業や運輸通信業に係わる大規模な工場や倉庫などが集中的に立地している。

商業は事業所全体の半分程を占め、その内訳は、卸売り・小売・飲食業部門、サービス業、その他がそれぞれ約3分の1ずつとなっている。情報関連産業も区内の基幹産業をなし、多くの事業所が立地している。

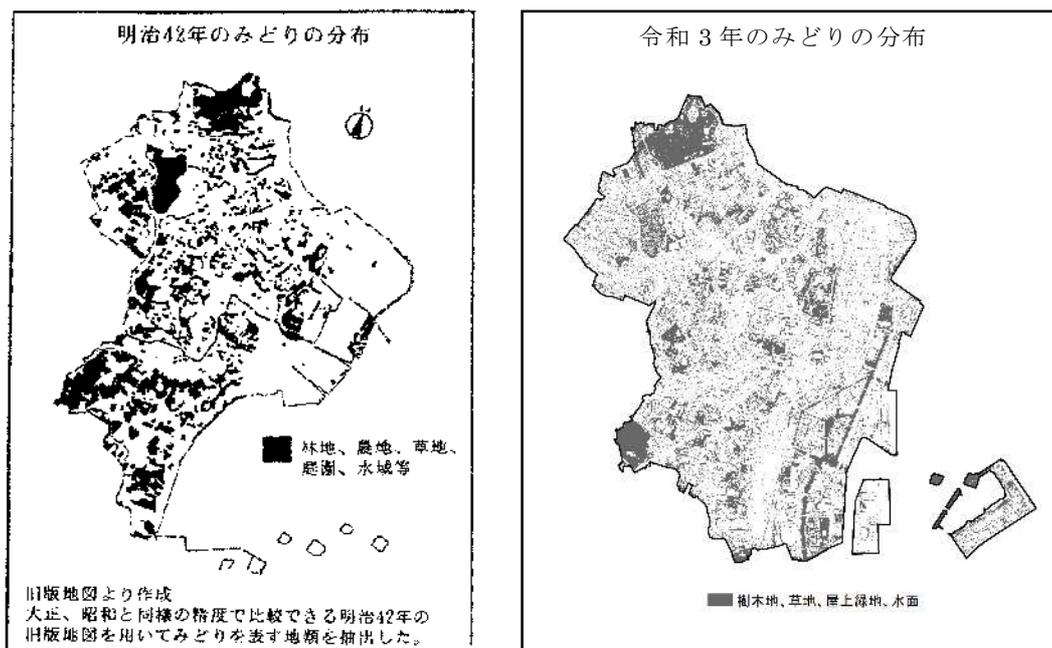
2.3 みどりと水の沿革

2.3.1 みどりの変遷

現在の港区のみどりは、江戸時代はその端を発しており、江戸幕府ができたことにより人口が増加し、山の手には武家屋敷、社寺、農地が形成され、人の生活に密接に係わる形で樹林が共存していた。

その後、明治時代に入り次第に首都機能を強めていく中で、樹林の多くは伐採され住宅・事務所等へと変貌していった。しかし、現在も公園・大使館等に転用される形で樹林の一部が残っており、比較的大きな面積のみどりが現在でも保全されている。

また、斜面地では建築行為が平地に比べ困難なため、現在でも樹林が残されている箇所が多いが、それらも近年の都市化傾向の中で、次第に保護が難しくなりつつある。



明治時代

現在

図 2.3.1 みどりの変遷

2.3.2 公園緑地

港区の公園緑地は、明治6年に太政官布達により芝公園が制定されたのをはじめとし、さらに市区改正条例により乃木公園、震災復興事業により桜田公園、南桜公園、震災復興事業により飯倉公園、狸穴公園等がつくられた。

その他、芝離宮恩賜庭園や有栖川宮記念公園等の大公園が下賜された。

昭和20年代には小公園の都から区への移管が行われ、より地域住民の生活に密着した公園整備が進み、現在も区立公園、児童遊園の整備が計画的に行われている。

昭和55年には下水処理場施設上部に芝浦中央公園が整備された。

昭和63年以後は港区緑地管理要綱に基づいて、開発行為による提供を受けた緑地や、芝浦港南地区の運河沿いの緑地整備が行われ、一般に開放されている。

また、港区の主な緑地の来歴を表2.3.1に示す。

表 2.3.1 主な緑地の来歴

名称	歴史的な由来
赤坂御用地	紀州徳川家中屋敷。明治5年（1872年）邸と敷地が皇室に献上され赤坂離宮となる。
旧芝離宮恩賜庭園	元禄年間に大久保忠朝が造った庭園。明治9年（1876年）に離宮となった後、大正13年（1924年）から都立庭園となる。
国立科学博物館附属自然教育園	南北朝時代、白金長者と呼ばれた豪族柳下上総介の屋敷。
八芳園	江戸時代、大久保彦左衛門の屋敷。
有栖川宮記念公園	盛岡藩主、南部家の下屋敷。有栖川宮家の所有の後、昭和9年（1934年）に東京市立公園となる。昭和50年区に移管。
芝公園	明治6年（1873年）太政官布達により増上寺の境内を含めて公園となる。上野公園、浅草公園と共に日本初の公園。
青山霊園	大久保利通、犬養毅、乃木希典、尾崎紅葉、北里柴三郎ら12万人あまりの墓所。
台場	ペリー来航後、黒船の来襲に備えて幕府が築いた砲台。

2.3.3 巨樹・古木

港区には現在も社寺や旧武家屋敷跡地等に古くからの樹木が残っている。善福寺のさかさイチョウ（推定樹齢775年、国指定天然記念物）、旧細川邸のシイ（区立高松中学校敷地内、都指定天然記念物）、増上寺のカヤ（推定樹齢635年、区指定天然記念物）、自然教育園のシイ（南北朝時代の遺構、自然教育園全体が国の天然記念物及び史跡）、芝東照宮のイチョウ（1639年の東照宮再建に際し、三代将軍家光が植える、都指定天然記念物）等多数の巨樹が残っている。

2.3.4 水環境

【海】

港区の海辺は、かつては伝統的な漁業が営まれ、砂浜では潮干狩りも行われていたが、現在では区の東側の広い範囲が、埋め立てにより形成された土地となっている。これらの地域は平坦な地形で都市開発の進行が早く、樹林等は少ない地域となっている。

臨海部は工業地や流通施設が立地するため、海浜空間も一般の利用が難しい状況であるが、運河沿いなどには緑地が整備されるなど親水性を高める工夫がなされている。

また、近年急速に都市整備が進んだ台場地区では、海浜公園が設置され人工海浜が整備されるなど人と海のふれあいの空間整備がなされている。さらに、倉庫等の流通施設が高層住宅へと利用転換が行われており、住宅系の土地利用が増加している。

【湧水】

港区は起伏に富む地形のため、古くから人々に親しまれている湧水や井戸が、数多く見られる。現在も湧水を利用した庭園が公園等として残っているが、斜面緑地の減少等により湧水箇所は減少している。

しかし、都心区の中では最も湧水に恵まれており、「柳の井戸（善福寺）」、「根津美術館」等で湧水が見られる。

【河川】

港区を流れる河川は古川で、1653年に玉川上水が完成した後、これを水源とすることで水量の豊富な河川となった。江戸時代には都市排水路としての役割の他、通船のための拡幅が行われるなど、都市交通・運輸の重要な役割を担っていた。

昭和30年代は東京オリンピック開催時の道路整備に伴い一部が埋め立てられて、新宿御苑の水源も絶たれ暗渠化も進み、一部の雨水処理のためにわずかに川の機能を残すだけとなった。

その後、古川の水量確保の観点から、東京都の清流復活事業によって下水道局落合処理場より高度処理水を送水する工事が行われ、平成7年3月20日から通水が始まっている。

また、平成20年からは「渋谷川・古川河川整備計画」に基づき、古川の水量確保と水質改善、親水空間の創造、沿川の都市景観の向上等に向けた取組みを、東京都や上流の渋谷区と協力して総合的に進めている。

【用水・ため池】

三田用水（世田谷区北沢5丁目玉川上水の取水口から都営地下鉄高輪台駅まで8.5km）は、1664年に江戸六上水の一つとして、芝高輪の大名屋敷への飲料水供給の

目的でつくられた三田上水が廃止された後、農業用水として利用されていた。

また、溜池は江戸時代はじめに、外堀兼用の上水源として築造されたが、明治時代に埋め立てられた後、大正時代には暗渠化され、現在は地名として残っている。